

- ① … 第1回定時評議員会 / 第3回通常理事会を開催
- ② … 第1回定時評議員会 / 第3回通常理事会 2019年度事業報告(案)について
- ③ … 各種別主要大会開催の現状
- ④ … SFA フットボールセンター開所一年を振り返る
- ⑤ … SFA フットボールセンター開所一年を振り返る (続き)
- ⑥ … お疲れ様でした! ~フェアプレー・規律委員長 柴崎康之
- ⑦ … 昨年、公式ウェブサイトリニューアル、「この「土台」の上に何を盛り付けるか?」~広報委員長 藤田雅彦
- ⑧ … インフォメーション 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

第1回定時評議員会 / 第3回通常理事会を開催

去る6月14日、ホテルプリランテ武蔵野において、「公益財団法人埼玉県サッカー協会 2020年度(令和2年度)第1回定時評議員会」及び「公益財団法人埼玉県サッカー協会 2020年度(令和2年度)第3回通常理事会」が開催されました。

定時評議員会における議題は以下の通り。

決議事項

- 第1号議案 2019年度決算報告(案)について
- 第2号議案 2020年度・2021年度公益財団法人埼玉県サッカー協会理事・監事の選任について
- 第3号議案 会長・専務理事の報酬について
- 報告事項 2019年度事業報告について

通常理事会における議題は以下の通り。

決議事項

- 第1号議案 2020年度・2021年度公益財団法人埼玉県サッカー協会理事・監事の選任について
- 報告事項 2019年度事業報告について

2019年度決算報告

2019年度 埼玉県サッカー協会 内訳書(次ページに掲載)

2020年度・2021年度公益財団法人埼玉県サッカー協会理事・監事の選任については、以下のように決定しました。

2020・2021年度 公益財団法人埼玉県サッカー協会 理事 / 評議員

会 長	鈴木 茂		
副 会 長	岡田 泉	林 昭雄	渡辺典子
専務理事	坂庭 泉		
理 事	田中龍太郎	貴田浩朗	柏 悦郎(新任)
	木村 滋(新任)	友清 創	二瓶省三

関 純	植松孝博	池田一義(新任)
谷地田昌史	東島雅之	秋谷 仁
宮崎剛雄(新任)	高橋勝行	関 克己(新任)
佐藤秀宣	飯野 明(新任)	
栗原靖治	船崎久壽	
遠藤圭介	大木正幸	大倉 浩
岡本武行	上條 岳	小林利成
新藤一晴	難波綾子	野間 薫
畑中隆一		

※理事の任期は1期2年、評議員の任期は1期4年
〈参考〉

2020・2021年度 公益財団法人埼玉県サッカー協会 種別委員長・専門委員長

【種別委員長】	第1種委員長	植松孝博
	第2種委員長	池田一義(新任)
	第3種委員長	都所亮介
	第4種委員長	東島雅之
	女子委員長	渡辺典子
	シニア委員長	秋谷 仁
	フットサル委員長	早川祐司(新任)
【専門委員長】	フェアプレー・規律委員長	田中龍太郎(新任)
	財務委員長	貴田浩朗
	技術委員長	福田直史
	審判委員長	木村 滋(新任)
	広報委員長	藤田雅彦
	施設委員長	鈴木 豊
	医事委員長	関 純
	科学委員長	西川誠太
	総務委員長	林 昭雄



2020・2021年度 公益財団法人埼玉県サッカー協会 理事・評議員

2019年度事業報告(案)について 事務局長 佐藤勝彦

①公益目的事業

第一 指導・普及事業

- 選手及び指導者養成事業
登録選手数約55,700人で全国2位。登録指導者数約6,000人で全国3位(昨年は2位)。
・キッズリーダー養成講習会はU10/8/6をまとめて取得できるALLコースの受講が多い。
・指導者養成事業は昨年オープンしたSFAフットボールセンターでの実施が多い。
- 審判員養成事業
有資格者は約20,500人であった。
- ホームページ運営事業
12月にリニューアルし視認性と利便性を向上。また、スマートフォンやタブレット端末からも快適な利用が可能なレスポンスWebデザインを導入した。
- 地域での普及事業
(1) キッズプログラム
多くの子供たちにスポーツの楽しさ、ボールと触れ合うことの楽しさを伝えている。
・キッズ(U-10)エリートマッチは新型コロナウイルスの影響で中止となった。
(2) キッズフェスティバル
試合をたくさん行うことで、多くの子供たちにサッカーの楽しさを知る機会を提供できた。
・JFAキッズ(U-8)サッカーフェスティバルは新型コロナウイルスの影響で中止となった。
・JFAユニクロサッカーキッズは実施できなかった。
- スポーツマネージャー養成事業
18名の受講予定だったが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。

第二 競技会開催事業

- 主催事業
約1,700チームが活動している。
・新型コロナウイルスの影響を受けた事業は次のとおり。
第1種：埼玉県市町村対抗戦兼県民総合体育大会 ⇒ 決勝戦中止
第3種：第22回埼玉県U-13サッカー選手権大会 ⇒ 決勝戦、3位決定戦中止

女子：第26回選抜高校女子サッカー大会「めめまカップ」in 熊谷 ⇒ 中止

その他：埼玉国際サッカーフェスティバル ⇒ 中止

- 受託事業
日本サッカー協会
・FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選第2戦 日本代表対モンゴル代表戦は、日本代表が6-0の快勝で約43,000人のサポーターが熱狂する試合となった。
・皇后杯決勝はNACK5 スタジアム大宮で開催され、日テレ・ベレーザが浦和レッズレディースに1-0で勝利した。無料試合であったが1万人以上の観衆で沸いた試合となった。
その他
・国体文化事業となったeスポーツ(ウイニングイレブン)で埼玉県代表決定戦を埼玉スタジアム2002で実施。
- 補助事業(種別)
サッカー・フットサル、男性・女性、少年からシニアまで多くの選手が所属する連盟の大会を行うことができた。
・障がい者サッカー大会は、第22回交流サッカーフェスティバル(主催：埼玉県障害者交流センター)を補助した。

第三 代表関連事業

- 国民体育大会
女子が本大会に出場し、4位だった。
- 全国大会参加チーム支援
18チームを支援した。

第四 施設管理事業

各種委員会、連盟、市町協会、登録チーム等で延べ977団体の利用があり、埼玉サッカーの普及、発展に貢献出来た。

②収益事業

第一 手数料収入及び物品販売事業

新たな収益事業となっているSFAフットボールセンターの自動販売機収入は約74万円となった。

③その他の事業(相互扶助等事業)

第一 チーム及び選手登録事業

選手登録数は昨年度よりも減少しているものの全国2位を維持。シニアとフットサルはチーム数、選手登録数ともに昨年度よりも増加している。以上

正味財産増減計算書内訳表

自平成31年4月1日 至 令和2年3月31日

(単位:円)

	公益目的事業会計		収益事業等会計			法人会計	合計
	<公1>	<小計>	<収1>	<他1>	小計		
I. 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
経常収益計	281,064,465	281,064,465	3,448,652	97,379,066	100,827,718	10,149,990	392,042,173
経常費用計	279,220,269	279,220,269	1,020,566	69,633,113	70,653,679	17,020,575	366,894,523
当期経常増減額	1,844,196	1,844,196	2,428,086	27,745,953	30,174,039	△6,870,585	25,147,650
2. 経常外増減の部							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	13,368,449	13,368,449	△1,189,219	△12,179,230	△13,368,449	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	15,212,645	15,212,645	1,238,867	15,566,723	16,805,590	△6,870,585	25,147,650
法人税、住民税及び事業税	0	0	397,700	0	397,700	0	397,700
当期一般正味財産増減額	15,212,645	15,212,645	841,167	15,566,723	16,407,890	△6,870,585	24,749,950
一般正味財産期首残高	474,513,555	474,513,555	1,217,464	107,304,458	108,521,922	△58,823,316	524,212,161
一般正味財産期末残高	489,726,200	489,726,200	2,058,631	122,871,181	124,929,812	△65,693,901	548,962,111
II. 指定正味財産増減の部							
一般正味財産への振替額	△11,379,166	△11,379,166	0	0	0	0	△11,379,166
指定正味財産期首残高	159,051,737	159,051,737	0	0	0	0	159,051,737
指定正味財産期末残高	147,672,571	147,672,571	0	0	0	0	147,672,571
III. 正味財産期末残高	637,398,771	637,398,771	2,058,631	122,871,181	124,929,812	△65,693,901	696,634,682

各種別主要大会開催の現状 ※7月22日現在

●1種

彩の国カップ → 無

天皇杯へは「東京国際大学体育会サッカー部」を推薦

●社会人

県リーグ → 無

但し県1部リーグは関東大会出場チームを決める為、9月より試合を行う
第27回全国クラブチームサッカー選手権 → 無 関東大会が開催される
ならば、連盟からチームを推薦する

市町村対抗県民総体 → 無

埼玉県社会人サッカートーナメント会長杯 → 11月から予定

全国社会人サッカー選手権大会関東予選 → 7/26・8/2

日本スポーツマスターズ2021埼玉大会 → 上位大会の方向性がわからない為、未定

各地区ブロック決勝大会、その他昇降格戦 → 今期はリーグ戦が無いので昇降格は無し

東京、栃木交流戦 → 無

●自治体

令和2年度埼玉県自治体職員サッカー選手権大会 → 無

抽選により、さいたま市以外にもう1チーム決定する予定です

※関東自治体大会(10月下旬)への出場チームを確定(埼玉県は前年度優勝のさいたま市役所以外もう1チーム出場可能)させる必要があるため早めに出場チームを確定させる(7月頃の予定)

●大学

埼玉県大学サッカーリーグ戦 → 9月~11月 詳細調整中

大学連盟会長杯(彩の国カップ予選) → 12月~3月 詳細調整中

アミノバイタル®カップ 県予選 → 検討中 現状では開催困難

アミノバイタル®カップ プレーオフ(派遣事業) → 8/29・30

アミノバイタル®カップ(派遣事業) → 9/26・28・10/2・4・11/3

審判資格取得講習会(3級、4級) → 有 詳細調整中

●2種

高円宮杯 U-18サッカーリーグ2020埼玉 → 9/5~12/13

埼玉県U-16リーグ → 未定

●2種高校

全国高校サッカー選手権大会埼玉県大会一次予選 → 9/6・13・20

全国高校サッカー選手権大会埼玉県大会決勝トーナメント → 10/11・18・24・31・11/1・8・15

各支部新人大会兼関東大会予選 → 1/16・17・23・24・30・31

県新人大会 → 2/6・7・13・14

●2種クラブ

日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会 → JCY 連盟より夏の全国大会を冬に開催と連絡有り

●3種

埼玉県 U-15リーグ → 未定

埼玉県 U-13リーグ → 未定

埼玉県ユース(U-13)大会 → 未定

●3種中体連

県中体連学校総合体育大会 → 無

関東中学校サッカー大会 → 無

全国中学校サッカー大会 → 無

埼玉県大会新人戦 → 開催予定 11/5~11/15

埼玉県ユース(U-13)リーグ戦 → 開催予定 2月ごろ

県中体連サッカー専門部指導者講習会 → 無

県中体連サッカー専門部審判講習会 → 無

●3種クラブ

日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 → 無 全国大会中止のため

埼玉県クラブユース(U-14)サッカー選手権大会 → 未定 レギュレーションの変更予定

埼玉県クラブユース(U-15)サッカー選手権大会 → 未定

埼玉県ユース(U-13)サッカー選手権大会クラブ予選 → 未定

●4種

第14回埼玉県第4種リーグ戦 → 9・10月 各地区・ブロックで日程調整

JFA第44回全日本U-12サッカー選手権大会埼玉県大会 → 有
1案 11/22・23 2案 11/13・22 選手権との総合日程調整による

第14回埼玉県第4種リーグ戦・選手権大会 → 有

1案 11/29・12/13・20 2案 11/23・12/6・13 12月20日の会場が確保できた場合

第15回埼玉県第4種新人戦中央大会 → 1/31・2/1

キッズフェスティバル U-6 → 中止

ユニクロキッズ in 西武ドーム → 10月3日

キッズフェスティバル U-6 → 2月7日 カテゴリ変更の可能性あり

●4種少年

県少年団大会 → 未定

U10大会 → 中止

●4種クラブ

サイエイCUP 第18回埼玉県クラブユースサッカー選手権U-12会長杯 → 無

第4回埼玉県クラブユースサッカー(U-10/U-8)リーグ → 無

サイエイCUP 第19回埼玉県クラブユースサッカー選手権U-10大会 → 9/21, 9/22 簡素化開催もしくは中止

サイエイCUP 第19回埼玉県クラブユースサッカー選手権U-11大会 → 日程未定 簡素化開催もしくは中止

第17回キッズ(U-6)サッカージャンボリー → 11/15 中止にする方向

第25回U-12彩の国さいたまCUP 新春少年サッカー大会 → 無

クラブ選手権U-12大会と合併

彩の国さいたまCUP 第19回埼玉県クラブユースサッカー選手権U-12大会 → 2021/1/11・1/17・1/24 連盟外部から数チームを招待し開催予定

第15回キッズ(U-8/U-7)サッカージャンボリー → 2021/2/7・2/14 簡素化開催

サイエイCUP 第19回埼玉県クラブユースサッカー選手権U-9大会 → 2021/3/7・3/14 簡素化開催

●シニア

埼玉県サッカー協会会長杯 埼玉県O-40サッカーリーグ → 9月~12月 会場押さえに合わせ開催し12月末で終了とする。(全日程未消化もあり得る)

埼玉県O-50サッカーリーグ → 9月~1月 会場押さえに合わせ開催し、1月末で終了とする。(全日程未消化もあり得る)

埼玉県O-60サッカーリーグ → 9月~1月 会場押さえに合わせ開催し、1月末で終了とする。(全日程未消化もあり得る)

埼玉県O-65サッカーリーグ → 9月~1月 会場押さえに合わせ開催し、1月末で終了とする。(全日程未消化もあり得る)

埼玉県O-70サッカーリーグ → 9月~1月 会場押さえに合わせ開催し、1月末で終了とする。(全日程未消化もあり得る)

埼玉県県民総合スポーツ大会兼埼玉県O-40サッカー選手権 → 9月~12月 会場押さえに合わせ開催し12月末で終了とする。(全日程未消化もあり得る)

埼玉県O-50サッカー選手権 → 9月~1月 会場押さえに合わせ開催し、1月末で終了とする。(全日程未消化もあり得る)

第9回埼玉スーパーシニアO-70サッカー大会 → 12/16 埼玉スタ会場 押え済ですが、埼玉スタの変更によっては不可となる場合有。

KTFA 第14回関東O-50サッカー大会 → 11/7・11/8 現況予定通り 開催予定ですが、関東シニア委員会による

●フットサル

第20回埼玉県フットサルリーグ1部 → 7月下旬 自粛要請が出た時点で中止

第18回埼玉県フットサルリーグ2部 → 7月下旬 自粛要請が出た時点で中止

第11回埼玉県フットサルリーグ3部 → 7月下旬 自粛要請が出た時点で中止

第17回埼玉県女子フットサルリーグ → 8月下旬 自粛要請が出た時点で中止

第2回埼玉県U18フットサルリーグ → 9月上旬 自粛要請が出た時点で中止

第26回全日本フットサル選手権大会埼玉県大会 → 10/4~11/22 自粛要請が出た時点で中止

第16回全日本大学埼玉県大会 → 無 上位大会中止の為

第7回全日本U-18選手権埼玉県大会 → 無 上位大会中止の為

第26回全日本U-15選手権埼玉県大会 → 8/29~30 自粛要請が出た時点で中止

パーモントカップ第30回全日本U-12フットサル選手権埼玉県大会 → 無 上位大会中止の為

第17回全日本女子選手権埼玉県大会 → 8月上旬 自粛要請が出た時点で中止

第11回全日本女子U-15選手権埼玉県大会 → 8/29~30 自粛要請が出た時点で中止

SFAフットボールセンター開所一年を振り返る 「メンバーの皆さんに安い費用でサッカーを楽しんでもらいたいという願いだけ」

旧県立騎西高校を埼玉県からお借りして、「SFAフットボールセンター」を開所したのが2019年3月。あれから1年が経つ中、利用状況や課題、そしてこれからを坂庭泉専務理事と佐藤勝彦事務局長に伺いました。

「トータルで見たらトントン」

—3月に開所して、ようやく一年が経ちました。

新型コロナウイルスの影響もあり、年間を通じての手応えをお聞きするのは難しいかと思いますが、この一年を振り返りつつ、今後の見込みをお聞かせください。

坂庭 その前に、まずはこの施設の目的を改めて認識していただきたいと思います。

まだまだ県内にはサッカーができるグラウンドが少ないことから、登録していただいているメンバーを対象に民間施設よりも安い価格で練習に取り組んでほしいという願いから作られました。

埼玉県からお借りできたのが、旧騎西高校という体育科が設置されていた施設でしたのでグラウンドも広く、防球ネットを張ってではありませんが2面取ることができました。またもともと照明がついていましたので、新しいものに変えましたが夜間の利用ができるということも利点でした。そして体育館、及び諸室の利用もできることから、利便性は高いと判断したのです。

予算的にもJFAからの援助はいただいた上で、SFAとして持ち出しはありましたが、借金はしていません。その中で一年間、貸出事業を行いました。トータルで見たらトントンというところになりました。トントンということが見えたところで、補助金の一部でエアコンなどの備品を購入して設置したという感じでしょうか。



坂庭 泉 専務理事

—2019年3月当初はそれほどでもありませんでしたが、ゴールデンウィーク前後からは週末を中心に予約が相次いだそうですね。

坂庭 特にこれといった宣伝はしませんでした。コンスタントに予約が入るようになりました。お断りの連絡を入れるのが佐藤さんの仕事になったくらいです(笑)。

当初、1時間5,000円(税別)の利用料を「高い」という声もいただきましたが、埼玉スタジアムの第4グラウンドは12,700円(土日・税込)、昨年度できた所沢航空記念公園運動場 12,530円(土日・税込)ですから、時間と共に安さを実感していただいたと思います。

佐藤 所沢ができてから、納得してもらえるようになりましたね(苦笑)。

残念ながら、2月、3月とキャンセルせざるを得ませんでした。予想以上の収益が出たと思っています。ホント、一年しっかりと通した数字を見たかったですね。特に貸出ができなかった4月、5月がどうなっていたのか。比較をしてみたかったですよ。

坂庭 今年に入ってからです。体育館をバレーボール、新体操の団体に借りていただくようになりましたし、トレーニング室ではレスリングの団体が継続的に入ってくれる予定となっています。

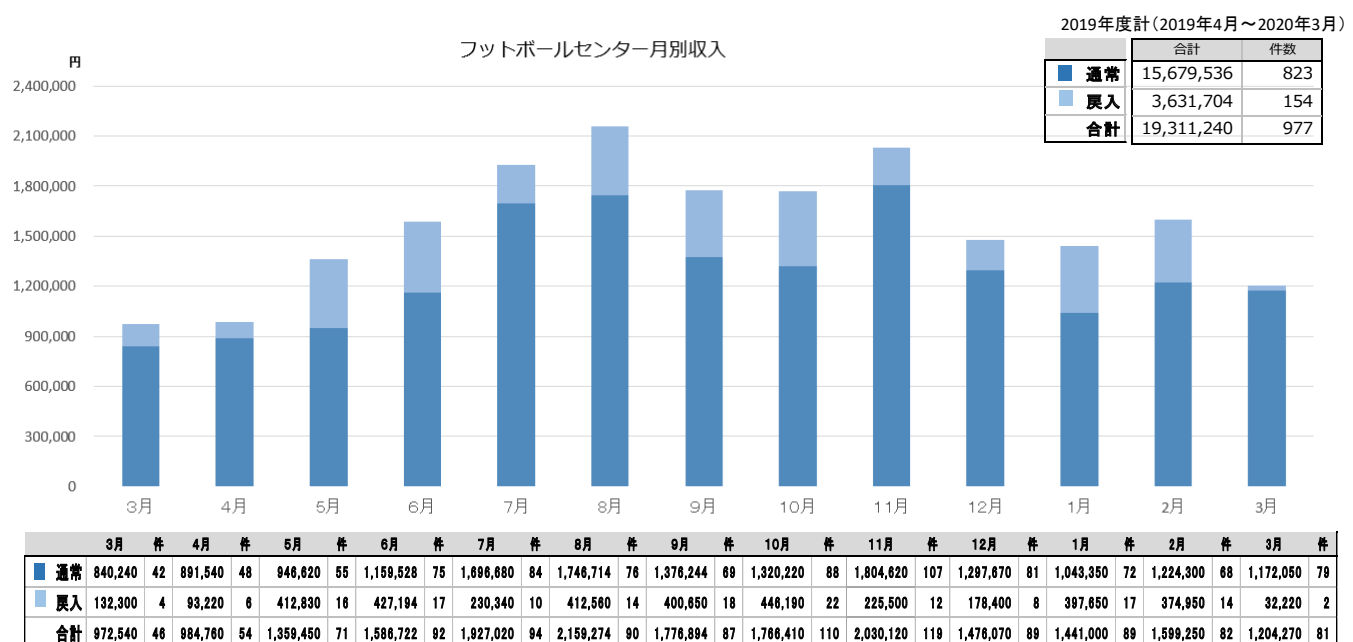
「これ以上、安くできない」

—他の競技団体もですか。広がっていますね。中断がなければ、さらに稼働率は上がっていたことでしょうか。改めて、低価格に抑えられている理由をお聞かせください。

坂庭 まず支出は抑えています。もともとは廃校ですので、あれこれと整備することができません。ただ、この一年やってみて、防球ネットの消耗が一番激しかったですね(苦笑)。ですから「もっとよくしていく」という方向性ではないのかもしれませんが。

例えば、砂利のままの駐車場を「アスファルトにしてほしい」という声がありましたが、それだけで収益は飛んでいってしまいます

SFAフットボールセンター月別収入グラフ(2019年3月オープンから2020年3月まで)



※通常:連盟、市町協会、一般利用 戻入:SFA各種別、専門委員会利用
 ※戻入はSFA組織のため収入とみなせない。⇒ 通常欄の収入をフットボールセンターの収入と考える。

(苦笑)。また、駐車場に「警備員を置いてほしい」とのご意見もいただきましたが、それだけで人件費がかかってしまいます。費用がかかるというのは、使用料金に上乗せせざるをえません。

それで一番の理由は、やはり廃校を安く借りることができたということです。1時間5,000円というのが使用料そのもので、管理運営費をJFAからの補助金で賄っています。その中で、今の利用状況でまさにトントンなのです。長時間割引とかの要望も耳にしますが、正直、これ以上安くできないくらいの金額なんです。

確かに公式戦はできないけれど、メンバーの皆さんに安い費用でサッカーを楽しんでもらいたいという願いだけです。改めて、県内においてはグラウンドが不足しているという現状を再確認できました。ただ、そもそもチームを立ち上げるときにグラウンドを持たずにスタートさせていることがグラウンド不足になる理由ではありませんけどね。

佐藤 あとシャワー、浴室の整備の要望もいただいています。施設そのものの老朽化もあり難しいところ。

—近くに温浴施設はありましたよね。

坂庭 東日本大震災で双葉町の皆さんが避難されていた時期は、温浴施設のマイクロバスがやってきていましたね。

—方法として、施設そのものの利便性を高めるというやり方もあるのですが、実際のところ難しいわけですね。ならば、元騎西町や加須市にある施設、店舗との連携を図るべきでしょう。例えば、温浴施設の話ばかりになります。パンフレットを置くとか、またはフットボールセンター周辺の地図を作り、その中で店舗を紹介する、さらに広告を入れていただくということは可能ではないでしょうか。

佐藤 そういうことはできると思います。

—あと計画時に、会議でグラウンドの周囲に協賛企業からバナー広告を出していただくことで運営費を補おうという提案をしたところ、横山前会長から「当たり前だ」と一蹴された記憶があります(苦笑)。そういう計画、予定はありませんか。

坂庭 交渉はしましたが、廃校になったとはいえ、やはり学校の扱いなんですね。学校に広告を出すということに関して、まだご理解をいただけていないというのが実情です。

—劇的に潤う事業ではありませんが、理解していただけるといいですね。

坂庭 少しずつでも改善されることを期待しています。

「ルール遵守をお願いします」

—さて、利用しているチームに対して、要望はありますか。

坂庭 あくまでもトレーニングをする場所なので、ウォーミングアップやクールダウンで使ってほしいスペースに見学者を入れるのは止めていただきたいですね。もともと登録しているメンバーのための施設ですので、そもそも見学者が入ってくることはお断りしています。また校舎内の施設を利用することもお断りしています。例えば、そういう中で窃盗や盗撮などの事件があると、その警備も含めた費用が発生してしまいますからね。ご理解をしていただきたいと思って

います。

あと、これは管理者、という視点ではないのかもしれませんが、もっと効率よくグラウンドを使ってサッカー、トレーニングしてほしいなと思います。1面を借りていて、半面は試合やっていて、もう半面は空けたままとか。見ることも大事でしょうが、ここはサッカーをやる場ですので、借りた時間内はしっかり、効率よく使い続けてほしいですね。そのためにウォーミングアップやクールダウン用のスペースを設けているのですから。

佐藤 私からはルール遵守ですね。喫煙に、ペットを連れてきたり、駐車場でエンジンをかけっぱなし。本当に更衣室が多いので、関係者以外には来場していただきたいくないですね。安全安心を担保できないからです。

坂庭 利用者以外の人たちが利用して、備品が壊れたり、消耗したりするのが困ります。ただ、今のところ事件になるようにことは無いので、一定のモラルは維持できていると思っています。

気になるのは、県外から来る練習試合の相手チームでしょうか。残念ながら、ルールをわかっていない人たちが多くいます。やはり借りた県内チームの人たちからしっかり伝えてほしいですね。

佐藤 敷地内だけでなく、周辺にも気を遣っていただけると助かります。バス停までの間のゴミも確認して回っています。

「他地区でも可能性が」

—住民の皆さんも注目しているというか、気にかけていただいています。自分たちのことだけでなく、視野を広げて利用していただきたいものです。

最後になりますが、まだ今後については見えません。

坂庭 平日も授業が長くなるなどあって、利用していただける間は少なくなるでしょう。あと土曜日も授業があると聞いています。そういう社会情勢に左右されてしまうことは仕方ないと思います。ただ、予想以上に利用していただいています。佐藤さんが断るかもしれませんが(笑)、引き続き利用をお願いします。

ここでの成果というか手応えなのですが、こういうスタイル、サッカーができるということだけに特化した施設であれば、他の地区でも展開できるのではないかと考えています。まだまだ施設は足りないわけ。質よりも数、という考え方でいけば、できるかなと。

—そのためには、こういう施設候補があり、資金的な課題をクリアする必要性はあるでしょう。確かに、ここ加須だけでは足りません。ぜひ、検討していただけると助かります。ありがとうございました。



佐藤 勝彦 事務局長



お疲れ様でした！

「埼玉のサッカーが、フェアプレーの下、さらに強く、発展することを願っています」

～フェアプレー・規律委員長 柴崎 康之

現在、「県立いずみ高校」において再任用でご活躍中の柴崎さんを訪ねました。県立浦和高校から筑波大を経て、埼玉県での教員生活をスタートし、埼玉教員クラブ(現、さいたまSC)では選手として日本サッカーリーグ(JSL)2部でもプレー。監督としても活躍し、国体少年男子監督など県内のサッカー発展に寄与されてきました。04年度より16年間の長きにわたりSFA 規律委員長～フェアプレー・規律委員長を務められた柴崎さんにお話を伺いました。(聞き手/広報委員 荒川裕治)

— 就任当時のことは私もよく覚えています、そもそも前任の井口さん(正夫氏・故人。浦和西高監督他)が「引退する」ということで、白羽の矢が立ったんですね。

柴崎 そうでした。ちょうど、その年で県高体連サッカー専門部の委員長を降りることになっていたんですよ。当時というか、諸田さん(純一氏)から引き継いで私が委員長になったことを機に、委員長は二期四年で代わることにしたんです。そう、そのタイミングでした。井口さんから「他にいないんだ」って頼まれて、引き受けたんですね。

— 2004年当時は、まだ「規律委員会」でした。

柴崎 そう。ちょうど、いろいろと問題が出てきた時期でもありました。ただ、実質的には「一人委員会」でしたね。坂庭さん(泉氏。現、専務理事)に助けをもらいながら、何かあると私一人があちこち行き、JFAにも行くという時代でした。ようやく4年前に、年三回会議を開くようになり、各種別での現状や問題点をすり合わせるようにしたんですけどね。

— そうだ、「会議を行う」と聞いて、その会議にお邪魔したこともありましたが(SFA NEWS 89号)。一番大きな出来事は、委員会の名称が変わったことでしょうか。

柴崎 2014年でしたね。横山(謙三氏・前会長)さんにね、「フェアプレーをしなければスポーツじゃない」と言われたんですよ。とにかく、横山さんがフェアプレーを重視されていたこともあり「規律委員会」から「フェアプレー・規律委員会」となり、専門委員会の中でも筆頭になりました。

振り返ると、あれこれ取り組みました。2008年、埼玉開催となったインターハイ(全国高等学校総合体育大会)に合わせて、選手同士だけでなくベンチの両監督も握手をしようと推進して、今では全国で行われるようになりました。監督同士の握手は、積極的に写真を撮って残すことをお願いしました。もう少し、露出を多くしたほうがよかったのかなという反省もありましたが、どのカテゴリーでもいい習慣になったと思います。

実際起こったこととしては、ある高校の指導者の暴力事件は、ネットに出たことによって判明した事件でしたので、印象的でした。ただ、フェアプレー・規律委員会としては裁定しませんでしたね。というのは、文書として正式に上申されたのではなかったからです。これに関しては、全国の規律委員長会議において他県の規律委員長から苦情というか、なんというか、「どうしてですか?」という質問をされました。「文書として出されなかったから」と申し上げましたが、他県ではそういうケースでも処罰対象としていたようです。心情的には理解しますが、ただ、そこは正式な手続きがあるべきなんですね。

あとは、ある高校が海外で起こした事件が発覚したときは、正直許せないと思いました。これについては「チームに対して、処分をすべきではないか」と、JFAとはかなりやりとりをしました。しかし、JFAの考え方は筋が通っていて「個人に懲罰が与えられた上に、チ

ームへの懲罰を与える」というんです。その事件は、サッカーに関わる中であれば案件ではありませんでしたから、JFAから個人には懲罰を与えることができませんでした。結局、これはFIFAでも同じようですが、「サッカーの世界ではチームだけの懲罰は行わない」ということで、この事件があって、委員の中に学識経験者として弁護士の井橋光平さんに入っていました。

— 確かに、いろいろな案件がありましたね。チームを持ちながら対応されていたことに関しては、改めて頭が下がります。

振り返るといろいろなことがありましたが、名称に「フェアプレー」がついたことで、委員会に対する印象がかなり変わったのではないのでしょうか。

柴崎 確かに。それまでが、どちらかというと裁定委員会のような立場で「処分」という、面倒くさいことをやっている委員会というイメージが強かったかもしれません。「フェアプレー・規律委員会」となったことで、フェアプレーが大事なんだというアピールにもなり、意味合いはよくなったと思います。また、2017年度から横山さんの発案で「試合中 文句を言わない!」を掲げたことは、さらにフェアプレーを広めていこうという意識が高まったと思います。

— あと、JFAも暴力追放に関する窓口を設けるなど、取り組みも活発になりました。



柴崎 康之 氏



(公財)埼玉県サッカー協会は、 フェアプレー日本一を目指します。

「埼玉県サッカー協会は、フェアプレー日本一を目指します。」

フェアプレーとは、ルールを遵守し

審判と相手選手を尊重して、

正々堂々と全力でプレーすることです。

観客の皆様にも、このフェアプレーの精神をご理解いただき、

選手への熱いご声援をお願いいたします」



(公財)埼玉県サッカー協会 フェアプレー・規律委員会



フェアプレーはまず握手から。審判と相手チームをリスペクトしましょう。



柴崎 そうですね。特に、この規律委員会の仕事を「司法」と定めて、立場を独立させました。他のスポーツよりもいち早く、いわゆる「三権分立」を打ち出したのは画期的なことでしたね。

実際、規律の面では、年々案件は少なくなっていると思います。指導者の規律、懲罰というのが明確になったからだと思います。かなり進んだのではないのでしょうか。ただ“モンスター・ペアレント”と呼ばれる、過激な保護者も出てきています。あと、案件としては社会人、3種のクラブ、4種に偏っています。特に4種の指導者の皆さんは、今までの感覚をリセットしていただきたいと思います。

ここからは、「フェアプレー・規律委員会」が動くのか、それとも「ウェルフェア・オフィサー」が動くのか、案件によって判断することになるのではないのでしょうか。

— 処罰するのか、指導だけでいいとするか。ということですね。

さて後任には、田中龍太郎さんを指名されましたね。

柴崎 今まで2種の代表として委員に入ってもらっていましたから、



委員会としての状況は理解してくれています。引き継ぎとしては……とにかく資料は渡しておきました(笑)。まあ、引き続き学識経験者という立場で委員には残りますので、サポートしていきたいと思っています。

—とにかく、お疲れ様でした。

柴崎 高体連の専門委員長としてSFAの理事になり、それが4年で終わってからの規律委員長、フェアプレー・規律委員長でした。20年くらいいたんですね。こちらこそありがとうございました。

また、フェアプレー・規律委員長時代は、いろいろな人に話を聞かざるを得ず、その中にはイヤな思いをされた方もいらっしゃったと思います。それについては、お詫びします。ただ、こちらも立場上、職務として行っていたことはご理解いただきたいと思っています。

まだ指導者として現場に立っています。埼玉のサッカーが、フェアプレーの下、さらに強く、発展することを願っています。

—ありがとうございました。引き続き、よろしくお願いします。

昨年、公式ウェブサイトをリニューアル。

「この『土台』の上に何を盛り付けるか？」

広報委員長に就任して一期二年を終えた藤田委員長に話を伺いました。そもそものSFAとの関わりから、ちょっとしたエピソード、そしてこれから……。

SFAとの関わり

振り返ると、父親がサッカー好きで子どもの頃から国立競技場へ日本代表やJSLの試合をよく見に行っていました。当時の日本代表GKは横山さん(謙三氏)の後でしたから、瀬田龍彦さん(当時日立)の時代。スタンドにお客さんがいないのが記憶に残っていて、そうそう、日韓戦はいつも負け、という時代でした。高校サッカーにももちろん興味を持っていましたが、高校選手権だと「だいたい準々決勝くらいから見に行けばいいだろう」という時代でしたね。それだけ埼玉が強い時代でしょう。強く印象に残っているのは、水沼さん(貴史氏・当時浦和南)で



藤田 雅彦 広報委員長

SFAに関わるようになったきっかけは、松本先生(暁司氏・故人)でした。一番ふところが深い方でした。横山さんも違うニュアンスでふところが深いのですが、共通しているのは、お二人ともこちらにとって、とかく“荷の重い仕事”を振ってくるところでしょうか(苦笑)。でも、毎回毎回実のところ渋々始めるのですが、次第に仕事を超えてハマっていくわけです(笑)。

勤務している(株)イシクラで「オーレ!埼玉」(埼玉県高校サッカー専門誌)を発刊したのが、27年前(1993年)、私が32歳のとき。「SFA NEWS」を始めたのは、その4年後(1997年)でした。関根

～ 広報委員長 藤田 雅彦

先生(弘之氏。元1級審判。現在は関東大学サッカー連盟特任理事など)と一緒に松本先生に呼ばれて「任せたらな」の一言でスタートしました。

最初はどうなるものかと思っていましたが、全県あらゆるところで試合があり、活動している埼玉のサッカー情報をどう伝えていけばいいのかわからない。そういう情報発信の必要性をいち早く察知し、取り組み、道筋をつけてくださったのが松本先生でした。

そういえば、「SFA NEWS」を創刊した後、まだまだ埼玉の高校サッカーが強かった時代に武南高校の大山先生(照人氏)からこんなことを言われました。

「県代表として関東や全国大会へ行くのに、どうして埼玉のメディアは付いてきてくれないのだろうか？」

確かにそうだなと。さらにこう言われました。

「正しく、結果や内容を伝えられているのだろうか？」

そう言われたら、何も言えないところですが、私は「これからは全部行きます」と答えてしまいました(苦笑)。半分勢いもありましたが、なぜそんなことが言えたかというと、自社媒体としては「オーレ!埼玉」もありましたが、「SFA NEWS」も任せていただいているという立場があったからです。最初は高校サッカーからではありませんが、



SFA NEWS 第1号 1997年4月15日発行

「SFA NEWS」のおかげで、種別関係なく「埼玉代表」のチームに対して分け隔て無く応援できるようになりました。その最たるチームが、「さいたまサッカークラブ」(関東サッカーリーグ2部)だと思っています。

広報委員長として

広報委員長を拝命し、二年が経ちました。広報委員長になったことよりも、SFAミッション委員会(専門委員長が集まる会議。以下、ミッション委員会)に参加させていただくようになったことで、SFAの全体像がようやく見えてきたと思っています。

この二年は、会長が横山さんから鈴木さん(茂氏)に替わったこともあり、全体的に活動そのものが手探りだったと思います。おかげでじっくりと各方面の活動を見せていただくことができました。

そういえば、最初のミッション委員会でこう挨拶させていただきました。「埼玉サッカーを支えてくださっているSFAのメンバーがプライドを感じられる活動をしていきたいと思っています」と。

広報委員会として具体的な政策としては、SNSの時代になって、「SFA NEWS」を継続して作成しながら、SNSの発信とそれに伴う公式ウェブサイトの改革を事務局と共に進めていきたい、でした。合わせて公式ウェブサイトを上手に使うことで事務局の仕事を軽減できるようにしたいと考えていたのです。ですから、委員長に就任して最初の仕事は、公式ウェブサイトをリニューアルするための予算書の作成から。その予算書を作成するのに、JFAの補助金申請を作成し、事業計画書も書きました。初めてのことばかりでしたね。

そして昨年(2019年)の12月、公式ウェブサイトをリニューアルしました。

ただ、リニューアルしたのはスマホやタブレットにも対応できるようにしたこともありますが、単純に言えば「土台」を作っただけです。付加機能を高め、中身をいかに充実させるかが問題です。

具体的には、できた土台の上は何を盛り付けるかです。何、というのは中身、コンテンツのことです。結果や活躍を紹介するだけではないと考えています。思うに、サッカーに対して情熱を傾けている人が多いのが埼玉。昔の「サッカー王国」だった頃の遺産が、人として残っています。この遺産を、どう未来につなげていくのか。公式ウェブサイトでは、そのようなコンテンツ掲載も検討していきたいのです。

この「人」ですが、選手や指導者だけではないと考えています。自社媒体の話で恐縮ですが、昨年9月に「ココロエ埼玉」というフリーペーパーを発刊しました。年三回、中高生向けのキャリア発見マガジン。いわゆる、職業紹介をする媒体です。これを県内の学校へ無料配布という形で取り組んでいます。

その創刊号でサッカーを特集し、県内のサッカーに関わる人たち取材し、紹介しました。浦和レッズと大宮アルディージャのスタッフ、審判、トレーナー、グラウンドキーパー……。読者である生徒さんたちから「選手が主役だけけど、その周りにどれだけ多くの人たちが関わっているのかわかった」という声を聞かせてもらいました。こういうことも「掘り起こし」だと思うのです。

これをヒントに今後はSFAの公式ウェブサイトでは結果、速報以外のものにもスポットを当てて、紹介していければと思っています。また、埼玉新聞にて週に一度「SFAだより」というコラムを掲載していただいておりますが、公式ウェブサイトにもコラム的なものも必要になると思います。

あと、もう8年後は「埼玉サッカー120年」の年になります。まだ先かもしれませんが、「100年史」を発行した2008年から見ても、さらにサッカーの裾野は広がりました。紹介したいこと、遺しておきたいものが、さらに出てきました。埼玉のサッカーの歴史は、そのまま皆さんの誇りだと思っています。引き続き、ご協力をお願いします。



リニューアルされた公益財団法人埼玉県サッカー協会のウェブサイト

インフォメーション

●2020年からSFAはミズノ

(公財)埼玉県サッカー協会は、プーマ ジャパン株式会社様とのオフィシャルサプライヤー契約満了に伴い、今年度より美津濃株式会社様(ミズノ。本社・大阪府)とオフィシャルサプライヤー契約を結びました。ミズノ様には国体選抜チームへのサポートなどをお願いしています。よろしくお願いいたします。

社会情勢が「新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止」から「コロナ禍(か)」という言葉に表されるようになり、ようやくJリーグでも制限付きではありますが、観客を入れての試合開催が始まりました。前号に続いて今回も各種別連盟の今後の大会予定を掲載しました。すでに7/11には関東サッカーリーグが無観客で開幕を迎えるなど、少しずつではありますがサッカーのある日常へ歩み始めています。

しかしながら、油断は禁物です。三密を避け、新たな日常生活の中で試合や大会の運営を実施しなければなりません。関係者皆様のご協力を引き続きよろしくお願いいたします。(藤田)

編集後記